

海洋島

第9巻 第1号 (通巻54号)

東京都小笠原水産センター

2007年 7月 6日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

04998-2-2545

Fax. 04998-2-2546

南硫黄島でクロカジキの幼魚を発見！

南硫黄島(N24度14分、E141度28分)は、昭和47年に島全体が天然記念物に、次いで昭和50年には、原生自然環境保全地域に指定されました。それにより南硫黄島には一般の立ち入りが禁止されています。今回、小笠原諸島を世界遺産に登録するにあたり東京都と首都大学が協力して、南硫黄島の自然環境調査を実施しました。合わせ、小笠原水産センターの漁業調査指導船「興洋」(87トン)で周辺海域において調査を実施しました。



南硫黄島に到着(24日の朝)

6月23日父島を出航し、翌24日早朝に180マイル離れた南硫黄島に到着しました。27日までの4日間、各種調査を実施しました。調査内容は、底釣りによる底魚資源調査、LCネットによる幼稚仔の採取、スキューバ潜水による島周辺のサンゴ分布、マルチビームソナーによる海底地形図の作成です。南硫黄島は、一足先に真夏の海、水温は29度もあり、天候に恵まれ調査も予定通りに進みました。

クロカジキの幼魚は、そうした海洋調査の合間、船を流している時に採取されたものです。25日の深夜、当直中の五ノ井船長はブリッジから、最初、波間に木の葉か何かが浮いているように見えたそうです。背鰭を大きく広げ海面に横になり、まるで寝ているかのように浮かんでい

る姿は、広げた背鰭だけが目立ち、とても魚には見えなかったそうです。ブリッジからデッキに出て、よく見ると、時折泳ぐような格好を見せたので、船側から「たも網」を使いすくってみました。船の光に集まったのか、船の灯りが届く範囲には、多数浮んでいる姿が確認できました。しかし、たも網を近づけると想像以上に素早く、逃げてしまうので、結局この夜は2尾(尾叉長7cm)をすくっただけでした。

26日には、やはり深夜の午前1時頃、当直に入っていた野沢甲板長は、ブリッジから船の灯りに向け、海面を何かが、多数飛び跳ねながら近づいてくるものを目撃。最初はトビウオと思いデッキに降り、前日に引き続き、たも網ですくったところ、今度はやや大きい幼魚でした。2日間でクロカジキの幼魚、計3尾(7cmを2尾、22cmを1尾)が採取されました。

過去、北硫黄島周辺では、同様にバショウカジキの幼魚をすくった事があり、カジキ類の幼魚期は、こうした島の周辺で過ごしているのではと推察されます。また、多数の幼魚が目撃されたことから、南硫黄島周辺は、クロカジキの主要な産卵及び回遊経路となっているのではなかと考えられます。



尾叉長22cmの幼魚。カジキ類の特徴である、吻はまだこの時期発達していない。また体側にはループ状になった側線がある。